

## ショートコメント vol.211 (2021年7月20日)

テーマ：ワクチン効果に対する仄かな期待 (7/20 update)  
～新規感染者数と重症者数のトレンドの乖離～

### ●年齢別の新規感染者数の動き

7/12 付のショートコメント vol. 210 において、大阪の新規感染者数につき、20～30 代と 60 代以上の乖離が進んでいる点を指摘した。仮にこの傾向が続くようであれば、ワクチン効果の可能性が高まるため、その後の推移が注目されていた。

それから 8 日が経過したが、改めて直近の数値をみてみたい。まず大阪の感染状況については、徐々に感染者が増え、1 日で 300 人を超える日も出てきた。人口 10 万人あたりの感染数 (7 日間合計) では 22.9 人と、ステージ 3 (15 人以上) の基準を超え、間もなくステージ 4 (25 人以上) となる恐れも出てきている (図表 1)。

そういった中、年齢層別の感染状況については、20～30 代と 60 代の乖離が続いている (図表 2)。直近でも 60 代以上の感染はほとんど増えておらず、20～30 代との格差は大きく広がった。高齢者は外出を自粛しているわけではなく、むしろワクチン接種を機に外出は増える傾向にある。こういった足元の感染の少なさが、ワクチンの効果である可能性は、徐々に出てきたといえよう。

### ●新規感染者数と重症者数の動き

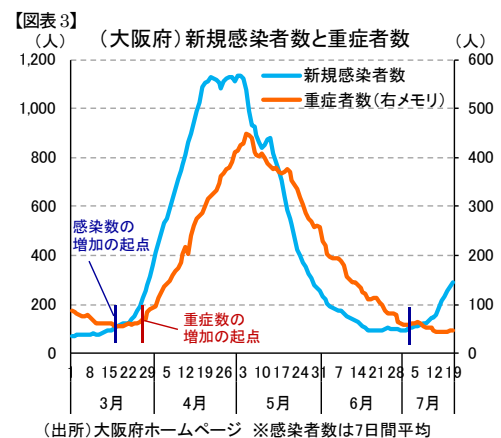
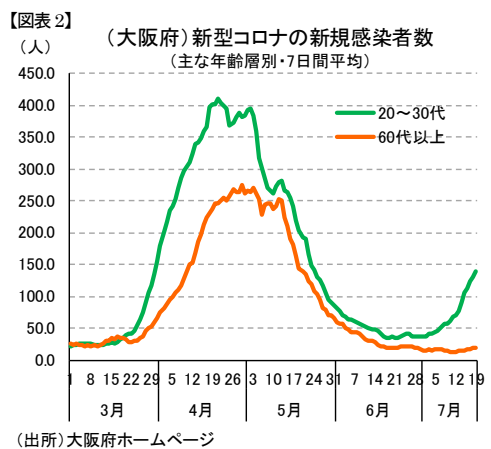
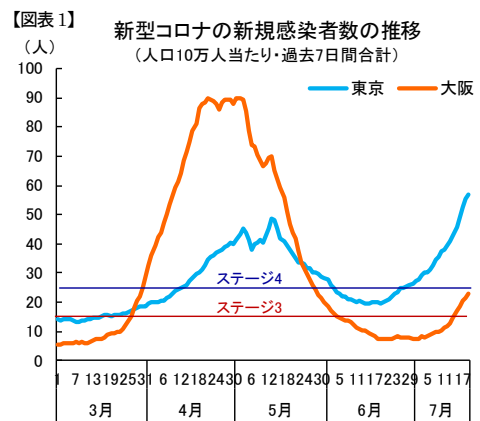
加えて、直近で注目されるのは、新規感染者数と重症者数の乖離である。

過去のトレンドでいえば、両者は一定のタイムラグの下で連動してきた。感染者数が増加局面に入った後、少し遅れて重症者数も増えるというサイクルである。

今回もそう考えられていたが、重症者数は横ばい傾向で推移している (図表 3)。前回の感染第 4 波では、両者のタイムラグは約 10 日であった。今回、感染が増え始めたのは 7 月 3 日であり、前回のサイクルを想定すれば、重症者数は 7 月 13 日ごろから増えてもおかしくなかった。

今回、重症者数の増加が免れている理由は、60 代以上の感染者数が増えていない影響が大きいとみられる。重症化しやすい高齢者の感染が少ないことで、重症者数も抑えられた可能性が高い。

もちろん入院者数全体は増えているなど、まだまだ楽観できる状況ではない。とはいえ、少なくともこれまでのサイクルと



※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

は異なる動きが続いていることは間違いない。

#### ●今後の注目点

今後の注目点としては、引き続き、年齢層別の感染状況に加え、新規感染者と重症者の推移となろう。

特に、重症者数の推移は注目度が高い。このまま低く抑えられた状態が続き、病床の逼迫が免れれば、緊急事態宣言の発出についても判断が変わる可能性が否定できない。

従来は、感染者数と重症者数が同じトレンドで推移してきたが、今回はそうでないとなれば、新たな判断基準が必要となる。今後はそういった部分にも注目が集まることになろう。

本件照会先：大阪本社 荒木秀之  
TEL : 06-6258-8805 mail : hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。